

VLBI 懇談会 2000 年度 第 1 回幹事会 議事録

日時 2000 年 8 月 23 日 午後 1 時 30 分～ 4 時

場所 国立天文台三鷹 コスモス会館会議室

参加者 井上允、小山泰弘、笹尾哲夫、藤沢健太、近藤哲朗、吉野泰造、
福崎順洋、澁谷和雄、松本欣也、鈴木和正、高羽浩、川口則幸、
亀野誠二、岩田隆浩、亀谷収、三好真、小林秀行

欠席者 村田泰宏、面高俊宏

(以上 敬称略、順不同)

- 資料
- a. VLBI 懇談会 2000 年度第 1 回幹事会
 - b. VLBI Standard Hardware Interface Specification-VSI-H
 - c. 第 75 回地震調査委員会 (臨時会) 資料
 - d. 機関報告：国土地理院における国際・国内観測
 - e. CRL11m 電波望遠鏡の岐阜大への移設について (報告)
 - f. SELENE 及び次期月探査計画の状況

議事

1. 各機関報告

国立天文台水沢：笹尾

VERA 計画は 3 局 (水沢、入来、小笠原) が認められ、各局着工した。

現在は、水沢局、入来局でアンテナ基礎の工事が始まっている。

9 月に潮汐シンポジウムを開催する。

10m アンテナに関しては、VERA アンテナの設置に伴い管路の設定変更が必要のために観測を休止している。12 月より再開の見込み。

国立天文台野辺山：藤沢

Jnet 共同利用の他に VERA 用の電波源サーベイなどを行っている。

45m は基礎部の劣化が著しく、Az レールの交換を行っている。

三鷹相関器は、旧相関器室より総合情報棟の新相関器室に移動した。

通信総合研究所鹿嶋：近藤

通総研として「スペースナビゲーションの基礎技術の研究」の予算要求をしている。その一貫として宇宙電波応用研は「実時間地球姿勢の決定」プロジェクトを開始した。また「IP による VLBI システムの構築」の研究も開始している。

34m アンテナの保守費については依然厳しい状況であり、予算的な目処

が来年度以降ない状況である。

6月に「VLBI技術」の英語版が出版される。

34mの成果をまとめて通総研特集号の発刊を行う。関連するプロジェクト（Jnet, VSOP など）の協力をお願いしたい。原稿の締切は11月の予定。

VSI(VLBI Standard Interface)の策定に協力しており、Ver1.0が制定された。(資料b参照)

通信総合研究所小金井：吉野

KSPの観測で、三宅島の噴火に伴い館山局と三浦局が動いており連日観測を続けている。(資料c)

注：VLBIでローカルな地殻変動を捕らえた初めての例であり、今後この分野の広がりを期待する意味でも重要な結果であるというコメント多数あり。

国土地理院(資料d)：福崎

国際観測をCOREを中心に年間62予定されている。さらに年間4回の国内実験も予定している。

つくば32mと鹿島26mの結合実験も行っている。

昭和実験のテープをコピーしてBonnでも処理を行っている。

つくば32mのIF光ケーブルが2回破損した。

高島さんがGSFCに留学した。またメンバが大きく入れ替わった。

極地研：澁谷

ホバート・ハートラオ・昭和で24時間実験を年間8回程度行ってきた。主に三鷹のVSOP相関器で処理しているが、COREに参加した分についてはコピーしてBonnでも処理をしている。観測のフリンジは良好に検出されておりDBも作成しているが測地解がまだでない。

41次隊は回数を減らして年間4回程度にする。Hメーザが1台不調で修理を行っている。アンテナはEXOS-Dのテレメトリー受信はほぼ終了した。JERS/ERSのほぼ終了。adios-2の受信も行う。

九州東海大：松本

東海大アンテナに関しては、Hメーザがない・リモートセンシングで使用されているために受信器の改造ができないなどの問題がある。

九州東海大では、VLBIリアルタイムモニター・8G AD(1bit)の開発・CG

による VERA 紹介アニメーション・流星電波の研究などを行っている。

岐阜大：高羽

3m 鏡を用いた GIFT 実験を行った。観測は K4 とギガビットレコーダを用いて行った。今後地理院と協定を結び、地理院の実験に参加する。学生は卒研究生が 4 名おり、GIFT データ解析、KSP/GPS データ解析を行っている。

リアルタイム VLBI の基礎実験を行っている。

VERA サーベイ天体の位置決定に興味を持っている。

KSP11m アンテナの移設を進めている。(資料 e)

SELENE/月探査:(資料 f) 岩田

SELENE では、月軟着陸は断念した。その代わり小型衛星を低高度に投入し、相対 VLBI 観測により月の重力場を精密に測定することは行える。そのための設計変更および各種試験を行っている。

次期月探査計画について、宇宙研理学委員会でワーキンググループを作った。また月面天測望遠鏡(ILOM)の技術検討・熱真空モデル試作・試験を行っている。

2 . Jnet 代表者交代

Jnet VEG 代表の亀谷から VERA の建設により多忙のため VEG 代表を三好に交代したい旨提案があった。本提案は局代表者会議で了承されている旨説明があった。幹事会としても了承した。

3 . VLBI 懇談会シンポジウム

12 月 6-8 日、国立天文台水沢で開催することになった。

4 . 国立天文台運営協議委員会委員の推薦

表記委員の推薦の依頼があり、高橋富士信(通総研)・春日隆(法政大)・平林久(宇宙研)・面高俊宏(鹿児島大)の各氏を推薦することに決めた。

5 . その他

幹事会旅費の補助について、松本(九州東海大)から今回は不要との申し出があり高羽(岐阜大)に行くことにした。

(以上、敬称略)